

2019年度第2回新潟市男女平等教育推進研究会概要

1 日 時 令和元年9月30日（月） 15:00～16:30

2 場 所 白山浦庁舎2-402会議室

3 出席者

(1) 委員（五十音順）

相庭 和彦	新潟大学大学院教育学研究科 教授
嵐田 浩二	新潟市立白根北中学校 教諭
稲垣 正子	市民生活部男女平等参画課 課長
岩崎 正法	新潟市立坂井輪中学校 教諭
片山 恒	新潟市立大淵小学校 校長
菅原 知和	新潟市立小針小学校 教諭
高橋 治子	新潟市立中之口東小学校 校長
中島 伸子	新潟大学大学院教育学研究科 准教授
中林 浩子	新潟市立白南中学校 校長
樋口 玲子	にいがた女性会議 委員
本間 智絵	新潟市立桜が丘小学校 教諭

(2) 事務局

山田 哲哉	学校支援課課長補佐
丸山 明生	学校支援課総括指導主事
佐藤 貴子	学校支援課指導主事

(3) 傍聴者

にいがた女性会議の皆様1名

4 会議内容

(1) 課長挨拶

6月26日の新潟日報には、巻北小学校での学習資料を活用した授業について報道された。相庭会長はこの記事の中で、ある仕事は男性のものだという価値観が強まれば、その職業を志す女子はいなくなる、と指摘され「それは社会にもマイナスだ」と強調されている。第1回の研究推進会では貴重なご意見をいただいた。本日は令和2年度から使用する新しい学習資料について、具体的にご検討いただきたい。委員の皆様のお力添えをよろしくお願いしたい。

(2) 会長挨拶

最近のテレビドラマを見てみると、車いすの男性を女性が支援する物語や、男性同士の恋愛を描いたものなど、ここにきてかなり社会の見方が変わってきた。古い男女

観は依然としてあるが、そこへ挑戦しているテーマ。もう少し、学校教育でも人権、自立、将来ビジョンについて考えていくと生きやすい世の中になるだろう。男とか女とか関係なく支えられるようになっていくとよい。

(3) 事務局説明 2020年度版「学習資料」内容について

第1回推進研究会では、次の2つの指摘があった。

- ① 学校で行う男女平等教育とその先に社会とのつながりという視点から改訂する。
- ② これからの男女平等教育の視点として、性別に関係なく自分らしさと能力を発揮して生きていく方向へシフトする。

その後皆様から代案等を含むご意見をいただき、8月にお届けした。

これらを基に、8月20日(火)に白山浦庁舎において、執筆担当者が原稿を持ち寄り編集会議を行った。修正を経て、印刷業者に出し、本日その第一校をお手元に配った。内容編纂の基本的な考え方を3点説明する。

- ① 家事労働の平等に絞った現在の窓口から、家庭内や社会に現実にある較差に広げて考える方向にする。
- ② 性別に関わりなく、自分の個性と能力を発揮して生きることについて考えることを主たるねらいにする。
- ③ それを具現するために、各学年共通に次のようなページ割りにする。

1 ページ目は、「ジェンダーの規制がかかることにきちんとと言える」ことを目標にしたページ。日常の遊びや服装、意識などについてイラストやグラフを基に話し合う。

2 ページ目には、「男らしく女らしくではない、自分らしくするとはどういうことかについて考えをもつ」ことを目標にしたページを配置。イメージだけで「男らしく、女らしく」と言われる場面や実際の男女格差データをイラスト等で提示し、自分に立ち返って議論する。

3 ページ目は、未来に目を向ける。「自分の好きなことや得意なことを生かしてどのように生きていくかを思い描き希望をもつ」こと「それと同時に他の人の『その人らしさ』も大切にす気持ちるを育む」ことを目標にする。子どもの希望や思いを書く欄の下に保護者からの励ましのメッセージを書いてもらう欄を設ける。

4 ページ目は、「自分の意思で自分らしい職業選択をした人々を紹介する」ページとする。相庭会長から保護者の皆様へのメッセージも掲載する。

このように、4ページを友達とのコミュニケーションを通して自分らしさをどう作っていくのかを段階的に考えていくようにページ割りをする。

これに沿って3つの学習資料について執筆担当者から説明。

【小3資料について】桜丘小 本間智絵教諭

【小6資料について】小針小 菅原友和教諭

【中2資料について】白根北中 嵐田浩二教諭

(4) 協議 2020年度版「学習資料」内容について

◇各学年のページ割を統一したのはよい。意図がはっきりしている。保護者への啓発

が3種類ともに入ったこともよいと思う。イラストも令和の時代らしい。

- ◇小3用の1ページから2ページへのつながりがほしい。1ページ目の趣旨は何か。
- ◇小3用の1ページ目のはジェンダーの規制がかかる場面で、きちんと言えることがねらい。そのためには、見ている人の考えを書かせることで、子どもに自分の考えを表出させた方がよい。例えばピンク服を着ている男の子に「この服新しく買ってもらったんだ、いいでしょう。」と吹き出しをつけて自分に対する肯定の気持ちを記載し、それに対してどう言葉を返すかを書かせるとよい。
- ◇小3と6用の2ページ目は、子どもとして、親に「男なんだから」「女なんだから」と言われることに対してどう言い返すかを大事にする。どうして嫌なのかを意識することが大事である。
- ◇中学校用1ページ目の内閣府のデータは適切か。賃金格差を扱ったデータを扱うことも考えられる。
- ◇中学2年生には賃金格差はぴんと来ないと思われる。実態に適した資料を選びたい。
- ◇2ページ目は差別的ではないか。
- ◇1ページ目とのつながりを考えた。男性でさえも男が優遇されていると認めることに対して考えさせたい。
- ◇2ページ目のイラストは、男性が優遇されている結果なのか、たまたまそうになっているのかを考えて載せた方がよい。授業参観にお母さんが多いのは男性が優遇されているからなのか、それとも今はそのような状況なのか。
- ◇世の中と学校とのギャップを取り上げたい。授業参観の一場面や夕食の後片付けの一場面など父親でも母親でもよいが母親の割合が高いものを取り上げ、平等ではないことについて考えさせたい。

(5) 閉会の挨拶

新しい学習資料について、キャリア教育の視点を入れて編纂していることはありがたい。今の子供たちになりたい職業を聞くと男女で相当職業が分かれている。そうではないのだ、もっと自由に考えてよいのだと伝える資料になっていくことを期待している。